破天荒
教宣部
4993号
2015年
6月23日
化学一般京滋地本
全竹中労働組合

2015夏の一時金
支給日7月3日

昨日、夏季一時金について二回目の団体交渉を行いましたが進展はありませんでした。組合としては月数は二・四八カ月、支給日は七月三日で集約の方向としました。

計算式の協定

過去、会社が最後に「余程のことがない限り昨年実績月数は確保する」と二・四一二カ月の回答したのは今から二八年前のことで十年間続けていました。現在の業績連動型になったのは数字から見るとおそらく十七年前からだと推測できます。

組合としては（一旦変わったにせよ）それだけ長い年月、信念を持って一発回答を続けてこられたのなら年二回も一時金交渉を行わず、二・三年の期限付きで協定化して支給前に業績説明を行う程度にしてはどうか？と提案しました。

計算式による回答になってからの平均は夏で二・四、冬で二・七カ月ほどです。

会社は、月ひとり経常利益が八万三千を越すような想定外の赤字になったリーマンショックのような時もあるので固定化したくないから協定できないとのことでした。

査定

プラス査定と響きの良い言葉でも十人いて八人プラスなら、傍から見れば二人はマイナスされているように見えます。

査定過程で電子総務では仮計算をするものの、最終結果は社長のみ知るそうです。

これでは疑心暗鬼しか生み出さないと思っています。

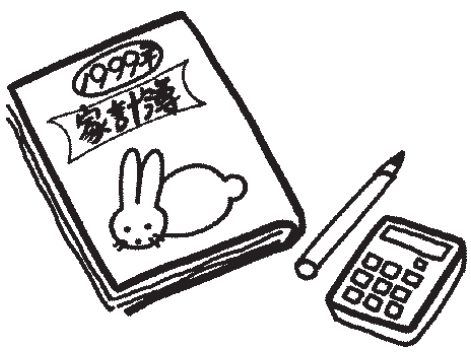
甲種嘱託社員

せめて短時間勤務の甲種嘱託社員はベースになる元々の賃金（九万弱）が低いのだからプラス査定でもして配慮して頂きたいと要請したのですが。会社は労務行政研究所のデータを持ち出し、再雇用労働者の年間一時金は二十万未満が三一・四パーセントも占めているとし、聞き入れる耳はありませんでした。

労務行政研究所で再雇用者の多勢を占めている賃金は九万弱ですか？

七月三日

一時金は「ごくろうさん」「ありがとうございます」と言って気持ちよく受け取りたいものです。査定の人は受け取った後、封を切って「おおっ」と「何ぢゃこりゃ」と思う人に分かれるのね。「今度は頑張ろう」ぢゃなくって。



ひとりごと

プロ野球オリックスの森脇監督が休養、つまりクビになった。今年は大金を投じて名前の売れた選手を補強し、優勝争いすると言われる程に前評判が良かったのに、故障者の連続で負け続け、現在は最下位。監督が責任を取らされることになった次第。補強した選手が故障せず活躍していれば…はタラの話になる。補強により以前から頑張っていた選手のやる気が落ちたのでは…、チームワーク作りがうまくできなかったのでは…など思うが、何であっても監督は責任の大きな仕事だ。采配だけで見れば、タイガースの和田監督の休養も近いと思っていたが、何とか持ち直しているようだ。

監督＝社長と見ていくと重なるところは多い。従業員を活かし、チームワークを作っていかなければならない。時には補強が必要だが、人を育てることも考えて、協力関係のある風通しの良い社風…なんて私が社長ならの夢の話。何しろ我がグループではオーナーの方針に従がうこと、オーナーの顔色を伺うことが社長としての第一の仕事となっているのだから…その状況下での采配は大変だとは思ってます。